

あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いいいたします。



中山正博 小林 徹 浅野靖彦 古川 卓 田中紀子 岩崎幸一 峯崎由美
保田真木 田中よし子 佐藤恵美子 伊藤裕子 成田昌代 島 武代
市村 明 南 建司 馬場春夫 守屋 勝 草場 泉 笹生宏一

NPO 法人あさひ 島 武代

2013 年皆様お一人おひとり、どのような新年をお迎えでしょうか、、、。

昨年は、皆様方に助けていただきまして NPO 法人あさひの 2 年、あさひ福祉作業所 35 年がすぎました。 今年は無菜部門、椎茸栽培の充実を、無論養鶏は昨年

より回復していますので、引き続き質量共に落とさないように取り組んでいきます。

私は、今年69才をむかえます。いつまでも元気でいられませんので、後を引き継いで下さる方を…との思い。又、入所生が年を重ね、11人中50才代が7名にもなっており、あさひの将来像をこの2年位のうちに具体的に考えていかねばなりません。

あさひ福祉作業所の周辺もどんどん変化し、原発事故以来の太陽光発電の普及で、北も南もソーラーの設置が進んでいます。

どうぞ本年も昨年同様、NPO あさひ、あさひ福祉作業所を応援していただきたく、又、応援していただけるように、スタッフ一同邁進してまいりますので、どうぞ宜しくご支援下さいますようお願い申し上げます。

細く、長く、かつ濃いお交わりを頂いて

社会福祉法人 雲柱社 理事長 服 部 榮



<出会い>

あさひ福祉作業所との出会いは全く偶然のことからでした。

今から36年前、私が勤務していた本所賀川記念館の職員募集に大阪から応募され、採用されたKさんとワークキャンプの受け入れ先について話し合っていたときでした。

彼の遠い親戚に山梨県で障害者の作業所を開設している人がいると言うことを耳にしました。この話がその後のあさひ福祉作業所との長い関わりの始まりとなりました。

早速、お電話差し上げて訪問の許可を頂き、4人の仲間と車で伺うことにしました。中央高速の須玉インターで下りて、住所を便りにやっとあさひに到着する事が出来ました。

当時はスポーツ施設もなく、緩やかな丘が作業所まで連なっていて、遠方に八ツガ岳連峰が見えていました。さらに、視線を左側に転じると雄大な南アルプスの山塊が目飛び込んできました。その景色の大きさに魅了され、私たち四人はしばし立ちつくしていました。

早速島先生ご夫妻の出迎えを受け、ビールが出されました。

私たちは、断ることも出来ずおそろおそろコップを手にして、冷たくひえたビールを頂きました。私たちの簡単な自己紹介を黙って聴



いていた島先生は、いともあっさりと、「では来てみてください」、と言われ、私たちの希望するに日程を書き止められました。

作業所内を案内してくださり、「キャンプでは鶏舎をつくってもらいましょうかね、」、と言われました。およそ一時間ほど滞在し、作業所を後にしました。

帰りの車の中で、夏のワークキャンプのことを考えると不安の思いが沸き上がってくるのを押さえることが出来ませんでした。

<初めてのワークキャンプのこと>

参加者30人余、中学生から高校、大学生、一般人と言う多彩なメンバーで、7日間のワークキャンプが始まりました。

朝6時に起き、ラジオ体操、礼拝をおこなってキャンプを始めることにしました。このパターンは現在も変わらず続けられています。

たぶん、このキャンプでは鶏舎を2棟建てた記憶があります。

それよりもこのキャンプで忘れがたい思いでは、大きな事故を起こしてあさひに多大なる迷惑を与えてしまったことです。

作業を終えた若者らが長坂の町まで買い物に行くのであさひの車を利用したい、と



言うので島先生にお願いし、許可を与える事にしました。

ところが、若者たちはなかなか帰ってきません。しばらくして作業所に電話があり事故を起こしたことを知りました。気が動転しそうなのを辛うじて押さえて現地にむかいました。

車は長坂駅近くの緩い坂道から落下して湿地に頭から突っ込んでいました。

若者たちが擦り傷程度の怪我ですんだのは不幸中の幸いでした。

このときはそのことを神さまに心から感謝しました。

島先生の指示を受けて、地元の業者に依頼し、密かにレッカー車で車を引き上げていただき事なきを得たのでした。あさひに大変なご迷惑をおかけしたのに、そのことには一言も触れず、「たいした怪我がなくて良かった。」事故を起こした若者たちに言葉を掛けてくださった先生の暖かさに、私も若者たちもただただ頭をさげるほかはありませんでした。

この出来事をめぐって参加者の保護者から、私のリーダーとしての責任と資質を問われることとなり、その後の仕事人生に大きな教訓を与えられたのでした。



<島先生の優しさ>

このような事故を冒したにもかかわらず、その後もあさひでのキャンプを続けさせていただきました。事故を起こした次の年のキャンプの時でした。

あさひについた私に島先生が近寄ってきて、「服部さん、去年事故を起こした青年たちは今年もキャンプに参加してくれましたか、、、」と尋ねられました。

「はい、参加しています。」「それは良かった。あの事故を気にして来てくれないのではないかと心配していました。」

この言葉を伺って、先生がああの事故のこと、特に当事者の若者たちのことを気に掛けていてくださったことを知り、有り難く思うと共に、先生の人間としての優しさの原点を見たように思いました。そのことをメンバーにも伝え、今度のキャンプも力いっぱい頑張ろう、と誓い合ったのでした。



<これはインターナショナルキャンプかね、！！>

本所賀川記念館から雲柱社に移った後も、あさひとの関わりを続けさせていただきました。

雲柱社が委託を受けたさくら橋コミュニティセンターは、全国でも珍しい中・高校生までをうけ入れる児童館としての事業展開を求められることになりました。

私はここに集まる青少年たちをあさひに連れて行って、厳しい労働の経験をさせたいと考えました。ちょうどその頃は学校が荒れていたころで、ワルたちが児童館に集まってきていました。彼らを連れてあさひでのワークキャンプを行うことにしました。職員間では彼らの参加の可否をめぐっては何度か議論が交わされましたが、最後は私の決断で彼ら参加を承認しキャンプを実施することになりました。

集まった青少年たちおよそ30名、髪の色も様々で見るからにワルの雰囲気醸し出していました。彼らとは小学生の時から付き合いなので、外見はともかく中味はそんなにおかしくないことを知っていたので、あまり心配はしていませんでした。



あさひについた私たち一同を見て、島先生が発したことが、「インターナショナルキャンプ」と言う表現でした。先生のユーモアに溢れた表現の中に彼らの存在を受容してくださっていることを感じ、頑張ろうという思いを強くしました。

彼らは炎天下での労働に弱音を吐くこともせず、黙々と働きました。

島先生も、「おお、結構やるじゃないか、」、と褒めてくださいました。

隣家の農家の方からは、よく働くからと言って西瓜を頂いたりしました。

キャンプを終えて帰る時、参加した彼らの顔が力いっぱい働いた達成感に輝いていたことを忘れることが出来ません。そして、このような場を与えてくださった島先生に深く感謝いたしました。

<あさひで職員研修を、、、>

社会福祉法人雲柱社では経験年数別研修を実施してきました。

「石の上にも三年」、と言われるように、三年目は職業人としての最初の岐路を迎えると言われています。この時期にインパクトのある研修が出来ないものか、と考えたとき、あさひでの農業体験が浮かんできました。

断られるのを覚悟して、恐る恐る島先生に電話で法人の研修の意図を伝え、受け入れをお願いしてみました。島先生は、「いいですよ」、といつものようにさりげなくおっしゃられて、田植えと稲かりに参加されてはどうかと提案してくださいました。

なんと有り難いことか、日本の農業労働の体験を通して、食の原点にも触れる機会となり、現場での食育に繋がる、、、受け入れ先の迷惑も顧みず自分勝手な考えを並べたてて、三年目の職員研修をあさひで実施させていただくことになりました。

毎年、春の田植え、秋の稲刈りを中心とした研修は参加者より予想以上の好評を得ることとなり現在もあさひのご好意に甘えてこの研修は継続させて頂いています。

参加した職員たちは大自然の清澄な空気を胸一杯吸って、雄大な景色に癒され、健康な汗を流し、自分たちで作った食事をお腹いっぱい頂き、あさひが出してくれるおやつに舌鼓をうち、朝六時からよる九時までの労働と研修の時を過ごします。

このようなすばらしい研修の場を与えてくださっているあさひ福祉作業所の皆さんに心から感謝申し上げます。

<障がいをもった仲間とともに>

夏には小学生高学年から高校生までが参加して、従来からおこなわれて来た、「サマーキャンプ」をあさひで実施させていただいています。

このキャンプには障がいをもった仲間たちが数名参加します。

三泊四日の日程で鶏の餌や水やり、農作業などに作業所の方々と共に参加させていただいています。都会の子どもたちにとってはあさひでの作業は決して楽なものではありませんが、結構頑張って働きます。彼らもまたあさひ福祉作業所がもつ暖かいもてなしの姿勢に、自然に溶け込み沢山の力を頂いて帰ることになります。

2009年4月11日

島先生の訃報を聞きて詠む

服部 榮

闘いの 半ばにありて

師は逝きぬ

山笑う 春の盛りに

風雪に 耐えて歩みし

師の生は

あたらしき道 切り開く生ぞ

こころざしを 貫き通して

生きし師は

世俗の名利 一顧だにせじ

障がいを 持つ人たちに

注ぐ眼は

時に優しく 時に厳しく

訃報きく

私のところに ひたひたと

喪失の思い 染みわたりゆく

行く度に

我らを迎えし 師の笑顔

まみえることの なきぞ寂しき

30余年

我らの思い受け入れて

支えてくれし 師への感謝尽きず

山桜の葉

萌え出る頃に 師は逝きぬ

起こせし事業に 心残して

＜なんと大きな恵み、頂いて来たことか、、＞

あさひでのすべてのキャンプに参加してきた私にとって、それは、様々な人々との出会いの場であり、自分を鍛える道場であり、健康の状態をはかる場でもありました。

また、あさひでのキャンプは人間としての原点の回帰の場でもありました。

無心になって汗を流して働く中で、都会で身にまとわりついたしがらみをそぎおとすことが出来たり、自分の内側にあるこだわりや悪しき思いを清算する場にもなってきました。

そしてなによりも、あさひが私に与えてくれるものは、大きな自然の中に自分を置くことによって、自分の存在の小ささを実感させられること、自然への畏敬、隣人への謙虚さなどであります。

＜これからもささやかな関わりを通して、あさひの歩みに加わらせてください＞

キャンプの度事に、多大なご負担をおかけしていますことを心苦しく思っています。年に数日仕事に参加しただけで、あさひの大変さを理解できるなどと思い上がってもしません。今後とも細く長い交流をもたせて頂きたいと願っています。常に一方的なお願いをするばかりですが、それを承知の上でお願いいたします。どうか、これからもささやかな関わりを継続しながら、あさひの歩みに加わらせてください。



あさひ と 鶏 と わたしたち

株式会社 小松種鶏場 岡本 隆光

あさひ と わたし

私があさひ福祉作業所（「あさひ」と呼びます）の皆さんとお知り合いになったのは丁度一年前の1月中旬、寒いころでした。

私が業務契約をしている小松種鶏場（鶏の生産・販売をしている会社）から、あさひへ行ってくれないか、との要請を受けて訪問しました。

そのとき、あさひの鶏たちの状態に、う～ん・・・、どうしようかな、と思ったものです（ごめんなさい、島さん） 率直に言えば、これではあまり卵は産んでくれないよな、と・・・

でも、あさひの人たちとよく話し合い、同時に鶏の立場に立って考え、やっていけばいいんじゃないか、との声もしました。あとは鶏の大変さを私たちがどこまで理

解できるか、にかかっていた。

私たちとは、あさひの鶏に関わるみんな、ということですが。

それからでした。あさひのみなさんとああでもない、こうでもないというやり取りが始まったのは。

また、まもなく声のとてつもなく大きな（ごめんなさい）馬場さんが仲間に加わりました。ますます話し合いに熱が入ったのは言うまでもありません。なにしろ、大きな声で話さないと頼りがいがなさそうになってしまいます??

私が提案したことは、おいしいエサを鶏にいっぱい食べてもらう事、少しでも鶏たちに快適に過ごしてもらう事の二つでした。

そしてもう一つ、たまごを産み終わった鶏たちを、ご苦労様、でも最後にもうひと働きおねがいしますね！と・・・⇒ かしわ肉をみんなに美味しく食べてもらう事

鶏 と わたし

わたしの経験してきたこと

私は、学校を脱してからすぐに飼料会社へ入りました。日本でも有数の古い会社でした。（でした、というのは、今はもうすでに無いからです。古い＝老舗である、というのは、それだけでは何の意味もないことを気付かされました）

会社に入ってまず就いたのは、豚のエサをつくることでした。仔豚のとてつもないかわいさと、とんでもないたくましさに驚かされた2年間でした。

次にであったのがブロイラー。から揚げでおなじみですが、発展途上動物（現在でも）どんどん育ちが良くなっていきます。育ちの速さと、ちょっとしたことでつまづく弱さにおののいたものです。これは15年間お付き合いしました。

今度はレイヤー（産卵鶏）、知識として知ってはいましたが、改めて鶏の産む卵の不思議さに脱帽です。

（でも、自らと同様の生命を作り出すことをし続ける、地球上で（宇宙で？）繰り返されているこのことの一つにすぎないのでしょう。）

たまごの驚き

卵は、人が食べるものの中で、牛乳と並ぶ「完全食品」と言われます。これは、鶏を尊敬の眼で育てている人にはすぐわかることです。

親鳥から殻という防護服を着せられて世の中に出て、親の暖かい懷の内で3週間、卵からひよこへ変身します。（もちろん、人間もたまご（卵子）からヒトへ変身しますが、親の体内で、ですよ）

つまり、卵は鶏の素（遺伝子）からひよこへ変身するまでのすべての栄養を持ち合わせているからです。そんなたまごは、やっぱり尊敬！！です。そんな素敵な卵を産む鶏も寿命があります。（といっても経済的寿命というやつが先に来ますが・・・）

親鳥肉（かしわ肉）

人間が死して残す名誉（悪名？）、虎が残す皮、では鶏は何を残すか、それが「かしわ肉」です。今は「親鳥肉」と言っていますが、産卵鶏が卵を産んで、もうあまり産めなくなったときに食鳥処理場で殺しますが、その肉が「親鳥肉」となります。

古い話になりますが、昭和 40 年代のころは、鶏肉といえば「親鳥（かしわ）肉」でした。やがてアメリカより肉用専用種が紹介され、日本国内にも生産する農場が出てきました。ブロイラーの誕生です。

それが評判を呼び、どんどん増え続けて鶏肉とはブロイラーのことを指すようになりました。

ブロイラーは何故瞬く間に広まったのでしょうか？

たぶん、「柔らかさ」と「朱に染めやすい淡白さ（味をつけ易い）」のせいだと思います。そして、それを武器にした「ハイカラ」が格好良く思えた時代でもあったように思います。

反対に、「かしわ肉」は硬い、味が強い、料理するのに面倒がかかる、など時代と逆行する要素しか連想されなかったのでしょう。



いまなぜ「親鳥肉」を

都会ではすたれてしまった「かしわ肉」ですが、今でも九州や東北地方では皆さんに食べてもらっています。

昔から続いている、卵を産み終わってご苦労様、でもごめん、もうひと働きお願い！ということで、養鶏場から町の小料理屋さん、食堂、腕に覚えのあるおばちゃん達によっておいしく料理されて、食卓に上がっているのです。

実は、「親鳥肉」ととてもおいしいのです。ただ硬いだけ。

でもその硬さを料理の方法、また少し工夫することで硬さを楽しめる程度に柔らかくできます。また、ひき肉にすることで、おいしさはそのままにハンバーグ、そばろなど鶏肉はいろいろ工夫次第です。

何よりも、素晴らしい卵をうみ続けてくれた鶏たちをおいしくいただいて、生を全うしてもらいたい、との思いがあります。

そんなかしわ肉を使つての弁当作りをある時 島さんに提案したら、すぐに「やりましょう！！」これには私のほうがびっくり・・・

確かに今まで苦勞の連続だった養鶏の仕事が、私から提案したことでゆっくりと改善されてきました。(ちょっと どや顔 で報告します)

でも、この提案は養鶏農家にはなかなか大変なことです。いままであちこちで提案してきたけど、こんなにすぐに、はっきりと「やりましょう」は初めてでした。きっと島さんの中でももっときちんとあさひが自立したい、という願いがあったのではと想像しています。そして、パンを引き売りしてきた経験から、突飛な提案には思えなかったのではないのでしょうか。

今、農業は生産するだけではダメになってしまいます。生産し、それを食卓にのぼるかたちにしてみずから消費者と関わっていかなければならない、と強く感じています。

あさひの取り組み

それからは、昨年の二回の交流会でご披露したように、草場さんというちょっと不思議な人（ごめんなさい）が中心になって惣菜・弁当作りを進めてきました。あさひで作っている米、しいたけ、たまご、親鳥肉を中心にして、近所の農家で採れた野菜などを使ってのお弁当作り。



あさひの男子部が米、しいたけ、鶏飼いをし、女子部がそれを皆さんに食べていただけのように選り分け、一緒に調理し、パンと一緒に皆さんの元にお届けして食べていただく、

一年前には想像もしなかった、出来なかったことが今、次々に現実のものになっていく様子、ホントにわくわくします。

これからいっぱい大変なこと、とんでもないことが起きるのかもしれないな、とは思いますが、私はあらためて「サポーター」としてあさひのみなさん、あさひの農場と関わっていこうと決めています。

こんな取り組みを一緒にしませんか。きっとわくわくしますよ！！！！

あさひ交流会のご報告

NPO 法人あさひ あさひテレサホーム 中山正博



恒例の餅つき交流会が12月8日に開催されました。前回同様に会に先立って、総会・理事会が行われました。任期満了に伴う理事及び監事選任、その後理事長、副理事長が互選されました。

当日は比較的天候にも恵まれ、終了する2時頃には雪が舞い始めましたが、冬晴れの中で無事会を終えることができました。ご参加下さいました方々、ご協力いただいた

ボランティアやスタッフの皆様、ありがとうございました。

当日は、朝からご注文いただいているのし餅や、召し上がっていただくつきたてのお餅（60升）を注文者や参加者有志の方々に、積極的にお餅つきに参加いただきあつという間につき終えることができました。

会場内ではフリーマーケット・豚汁コーナーおにぎりや漬け物にコーヒーやお茶のサービス、そして親鶏のひき肉を使用したハンバーガー等などどこを見ても大賑わいで、つきたてのお餅がでてくるとあつという間に売り切れてしまうほどでした。

ステージの方では、代表の島の挨拶に始まり、参加者の挨拶では、惣菜室関連で多大な協力をいただいています。岡本隆光様にお話いただきました。今回の交流会は惣菜室のデビューでもあり、親鳥肉ハンバーガーのデビューも含めて今回お話を

いただきました。

続いて今回は新スタッフ2名を含めた自己紹介を、理事・寮生・スタッフ各々にしていただきました。

最後は、新理事として今回参加いただいた、吉田愛一郎様にお話いただきました。今回は、合唱隊にも参加いただき素晴らし



今回は閉会の挨拶を、保田真木さんにいただき無事交流会を終えることができました。

◎日 時 平成 25 年 4 月 13 日（土）
午前 10 時～午後 2 時

◎会 場 あさひテレサホーム
（あさひ福祉作業所）
山梨県北杜市高根町村山北割 86－6
TEL 0551－47－3950

島 武代



**天然酵母国産小麦のパンでおなじみの「ぶ〜こっこ」と
 平飼い卵・原木しいたけの「あさひ福祉作業所」が
 手作りのお弁当屋**テリコッコ**を始めました！**

☆チキンバーガー¥300
 あさひの卵を生んだ後の親鶏肉で作った
 バーガーパテとぶ〜こっこの手作りパン
 のコラボです。
 ソース/ピクルスも手作りです！

☆鶏そぼろ弁当¥400
 親鶏肉の鶏そぼろとあさひの卵の卵そぼろ
 野菜のおかず付き

☆キーマカレー¥400
 鶏ひき肉の本格インドカレー野菜入り

☆ハンバーグ弁当¥400
 チキンハンバーグ・野菜のおかず
 自家製ソース付き



当面は予約
 前日午前中までに予約いただき、
 販売致します。
 (火・水・金)に承ります。

TEL 0551-47-3950
 FAX 0551-47-4414
 〒408-0002
 北杜市高根町村山北側 86-6 あさ
 ひ福祉作業所内
 「ぶ〜こっこ」

編集者：中山 正博